

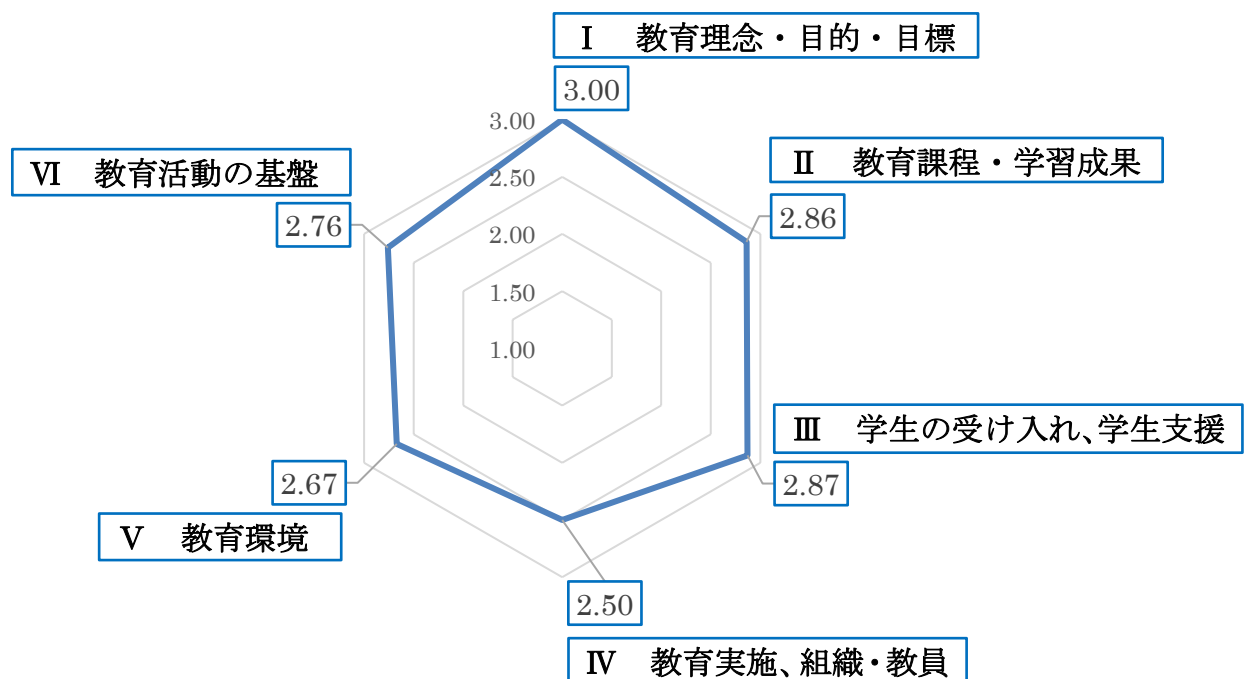
学校評価

令和8年3月に、教育活動の充実のために、学則第2条に基づき、学校運営に関する自己評価を行いました。評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」*に基づいて、6カテゴリー 39項目 である。

評価基準は、3点：基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている、2点：概ね基準を満たしている、1点：基準を満たしておらず改善が必要 とした。

※ 「専修学校ガイドライン 令和7年6月文部科学省」の専門学校の自己点検の項目により作成

大項目	小項目	項目数	評価の平均 (四捨五入)
I 教育理念・目的・目標	① 教育理念・目的及び目標の設定等	1	3.0
II 教育課程、教育の実施、学習成果	① 教育課程の編成と授業科目 ② 教育の実施 ③ 単位・卒業認定 ④ 学修成果目標の達成状況	6	2.86
III 学生の受け入れ、学生支援	① 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 ② 自主的な学習の促進に対する支援 ③ 多様な学生に対する支援 ④ 学生生活に関する支援	9	2.87
IV 教育実施 組織・教員	① 教員の配置、募集、採用 ② 教員の組織編制 ③ 教員の資質の向上	7	2.50
V 教育環境	① 教育環境の整備 ② 安全対策、防災組織 ③ 施設・設備等の点検、改善等	7	2.67
VI 教育活動の基盤と改善・向上の取組	① 中期事業計画と財務基盤 ② 学校運営 ③ 学校評価の実施と改善活動 ④ 社会からの理解と情報公表	9	2.76
平均			2.78



総合評価は平均 2.78 でした。

I 教育理念・目的・目標

- ・本学院の責務の元、どのような看護者を育てたいかが明確になっている。
- ・学生が理解しやすい表現にし、期待する卒業生とリンクさせ、卒業時の自分の姿が想像できるようにしている。

II 教育課程、教育の実施、学習成果

- ・教職員全員で教育計画、教育運営に協力し合い尽力している。新カリキュラムとなり4年が経過しているため評価修正をしていく。
- ・外部講師が多いことから、学修の質を考慮した配列にならないことが生じている。
- ・各々が担当の授業内容、形態等を振り返り修正しながら臨んでいる。授業間の重複や整合性など検討しながら進めている。

III 学生の受け入れ、学生支援

- ・少子化、大学進学希望者の増加などに伴い、受験者数が減少している。進学説明会や職業講座などの依頼は受けるようにし、学生確保に向け取り組んでいる。
- ・カウンセラーを配置し、学生の相談に適切に対応している。

IV 教育実施組織・教員

- ・教員は授業間を連携・協力し合い、専門性の高い授業や教授力のフォローアップ体制がつくられている。
- ・教員は自主的な研修参加により教授力を高めている。今後は実習病院とも連携し、病院研修へ参加し教員の資質向上に努めていく。

V 教育環境

- ・施設・設備の老朽化への計画的設備修繕を進めていく。
- ・電子テキストやタブレットを導入し学習支援を進めている。DX推進が今後も必要である。
- ・医療の進展に合わせた機械類の設備は十分とは言えないが、教員の工夫や教授力でカバーしている。

VI 教育活動の基盤と改善・向上の取組

- ・県の中長期的計画に沿い、教育目的、教育目標の実現に向け教育活動の向上に取り組んでいく。